時代の変遷とともに歩んだ100年

大通公園年表

1869（明治2）年
開拓判官・島義勇が開拓使本庁敷地の正面に空間をつくる計画を立案

1871（明治4）年
街の中心部を南北に分ける大規模な空閑地がつくられる

1911（明治44）年
長岡安平の設計により、大通逍遥地全面に植樹、西3丁目～7丁目を本格的な公園として整備

1926（大正15）年
西13丁目に札幌控訴院（現在の資料館）が完成

1944（昭和19）年
戦争中の食糧確保のため、大通公園の1万坪が菜園になる

1950（昭和25）年
大通公園の復旧が始まる。西7丁目で第1回さっぽろ雪まつりを開催

1968（昭和43）年
西1・2丁目が公園化。西4・7・11丁目に噴水を設置

1980（昭和55）年
都市公園法が適用され、名実ともに「大通公園」となる

1989（平成元）年
大通公園リフレッシュ事業により再整備を開始

1994（平成6）年
再整備が完了。現在に至る

空き地から公園へ

明治時代は、大通が空閑地から逍遥地（散歩などをする場所）へと変わっていく時代でした。開拓使によって初めて大通に花が植えられたのが明治9年（3・4丁目）。13年には豊平館（1丁目）が建設され、大規模なイベントなども開催されます。41年には西9・10丁目も逍遥の区域となり、42～44年にかけて本格的な公園に整備されました。

↑大通西3丁目からの全景

公園ではなくなった戦時中

第二次世界大戦中は食糧不足が深刻になり、一面がイモなどの菜園に変わってしまいます。終戦後は占領軍に接収され、3丁目に教会、4丁目に野球場、5丁目にテニスコートが造られ、それより西は荒れた状態で、ごみ捨て場と化していた時期もありました。「大通を以前のような公園に」という市民からの多数の意見を受けて、昭和25年から復旧が始まりました。

↑大通西7丁目で畑を耕す市民

大通公園の再整備を担当した
市みどりの推進部長　**石村 寛人**さん

平成の再整備でより魅力的に

大通公園は、市民の思い出が詰まった場所。そのため、再整備に当たっては、今まで培ってきた魅力を生かし、高めることを意識しました。特にこだわったのが緑。樹木は配置を変えて生育環境を良くし、芝生は美しさが保たれるよう土を改良しました。8・9丁目に子どもの遊び場として、遊水路、イサム・ノグチの彫刻の滑り台を設けたのもこのときです。

つどい（遊び・イベント）ゾーン

6丁目

北側にある開拓記念碑は、明治19年に建立され、明治32年に大通公園に移転。6丁目にはサクラが多く植栽されている。

5丁目

中心に位置する聖恩碑は、昭和11年の天皇行幸と12年の水道事業完成を記念して建てられた。

オアシス（水と光）ゾーン

4丁目

中央の噴水のほか、歌人・吉井勇がライラックを愛する札幌市民の気持ちを詠んだ歌碑がある。いずれも北海道銀行が寄贈した。